

第 6 学年体育科学習指導案

令和 3 年 1 1 月 1 1 日(木)
6 学 年 2 組 3 5 名
授 業 者 桑 原 優 介

わくわく・どきどき・チャレンジ蔵前

目指す児童像
自分の考えをもち、表現し合うことで、多様な考えに触れ、あきらめずにチャレンジする子

1 単元名 器械運動「エンジョイ！跳び箱運動！」（6 時間）

2 単元の目標

知識及び技能	・跳び箱運動の行い方を理解するとともに、自己の能力に適した切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、発展技に取り組んだりすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	・自己の能力に適した課題解決の仕方を工夫したり、自己や仲間の考えたことを他者に伝えたりすることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	・運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

3 単元の評価規準

知識・技能	・跳び箱運動の技の行い方やポイント、練習の仕方について、話したり書いたりしている。 ・切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりしている。
思考・判断・表現	・友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。 ・踏み切りや着手、空中姿勢など、自己の能力に適した課題を見付け、その課題解決のための活動を選んでいる。
主体的に学習に取り組む態度	・準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 ・跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ・きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 ・場や用具の安全を確かめている。

4 児童の実態

略

5 単元について

本単元では、単元を通して、リズム跳び箱運動を設定し、低学年の器械・器具を使つての運動遊びで学習した感覚づくりの運動を取り入れていくことで系統的に運動することができるように指導に当たる。また、技のポイントをグループで見付けていくことで技の上達につながることを実感させ、学び合いが活発になるようにしていく。

今回の学習では、「自己の能力に適した技の課題を発見し、解決していく中で技を安定して行うこと」に重点を置いて指導し、跳び箱運動の楽しさや喜びを感じることができるようにする。本単元で味わわせたい運動の特性については以下のように捉える。

<運動の特性>

- ・技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりする時に楽しさや喜びを味わうことができる運動である。
- ・「できる」「できない」がはっきりした運動であることから、自己の課題を見付け、その課題の解決の仕方を考えたり、練習の場や段階を工夫したりすることが大切な運動である。
- ・日常生活では行われない動きを含むため、技への取組には恐怖感を感じることがあり、また失敗時には痛みを伴う場合があることから、児童によっては敬遠されることが想定される運動である。

【第6学年 器械運動「主体的に学習に取り組む態度」指導・評価計画】

「学びに向かう力」を育むために、複数の単元にまたがって観点別学習状況評価を行う。教師が評価のための記録に労力を割かれ、評価に追われてしまえば、必要な指導や支援を行わないまま一方的に評価をするような状況が出てくる恐れがある。そのため、無理のない指導と評価の計画を下記のように立て、指導内容の定着を図る。◎については重点化した指導と評価を行う機会とする。

	1 学期		2 学期
	鉄棒運動【5月～】	マット運動【6月～】	跳び箱運動【11月】
ア 愛好的態度	◎	※他領域で重点的に指導する。	※他領域で重点的に指導する。
イ 公正・協力	◎	※他領域で重点的に指導する。	※他領域で重点的に指導する。
ウ 責任・参画	※他領域で重点的に指導する。	◎	◎
エ 共生	※他領域で重点的に指導する。	◎	※他領域で重点的に指導する。
オ 健康・安全	◎	※他領域で重点的に指導する。	◎

※◎は重点的に指導する観点

6 研究主題に迫るための手立て

(1) 本単元において「学びに向かう力」が見られる児童の姿

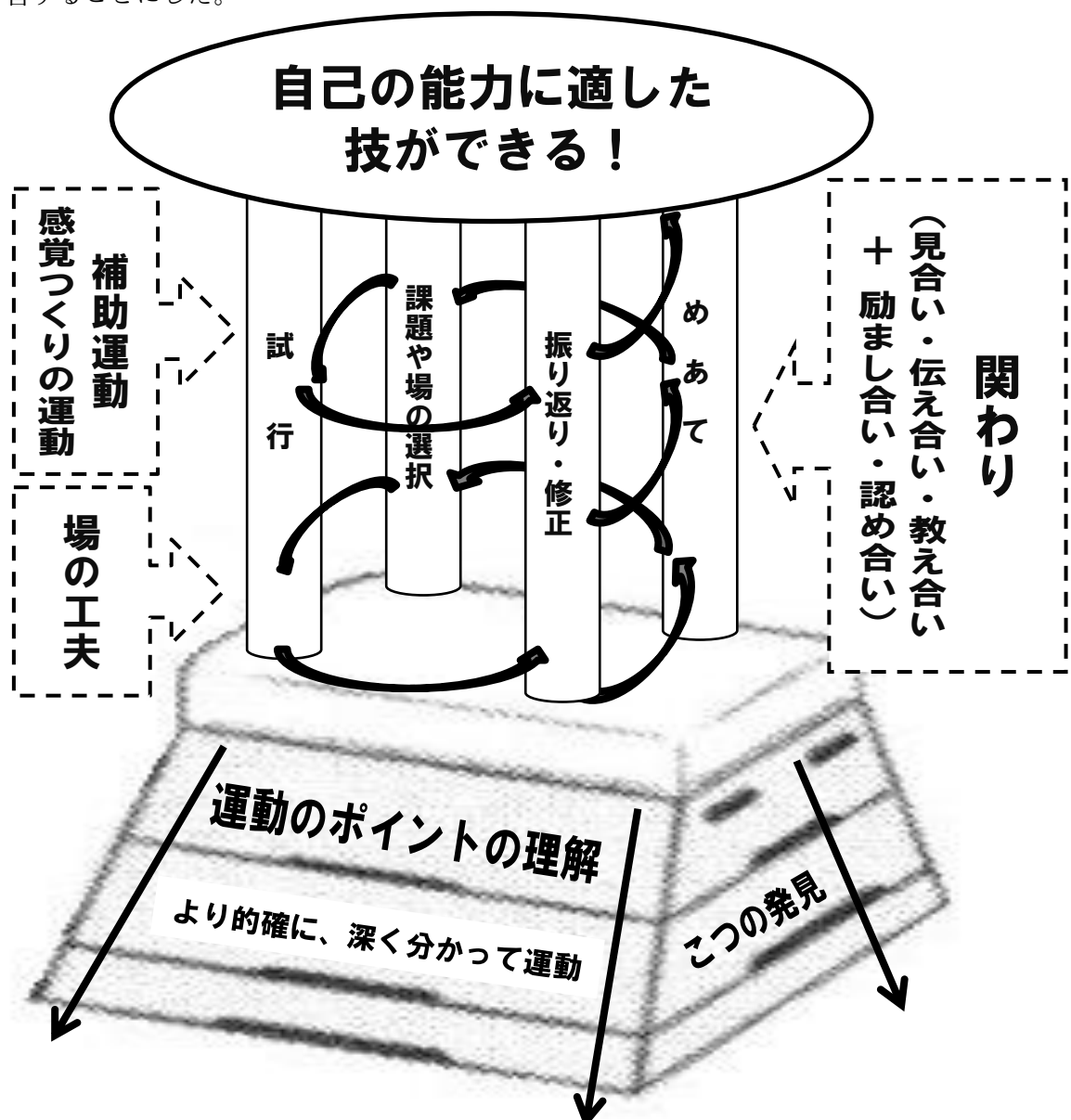
- (★1) 安定して技ができるように何度も挑戦し、跳び箱運動に積極的に取り組んでいる姿。
- (★2) 自己の能力に適した課題を見付け、課題解決の仕方を伝え合っている姿。
- (★3) 分担された役割を果たすとともに、場や用具の安全を確かめている姿。

(2) 「学びに向かう力」を向上させるための工夫

手立て① 教材と出会い、学びのイメージを拡げる工夫

【単元計画の工夫】(「理解の問い」)

全6時間で構成し、1時を「知る」2時～3時を「つかむ」4時～6時を「高める」段階と位置付けた。そして2時～3時の学習では、トリオで取り組みながら繰り返し系と回転系の技のポイントを見付け出す活動、4時～6時では一人一人が自己の課題を設定し、必要な練習や場を選んで課題の解決に取り組むことで、自己の能力に適した技ができるようにした。しかし、毎時間取り組みたい技を自由選択にしてしまうと多くの場が必要になり、児童同士も教師も見合うことが難しく時間を有効に活用できないことが考えられた。そのため、第4時は繰り返し系、第5時は回転系、そして第6時では、繰り返し系と回転系の技に分けて学習することにした。

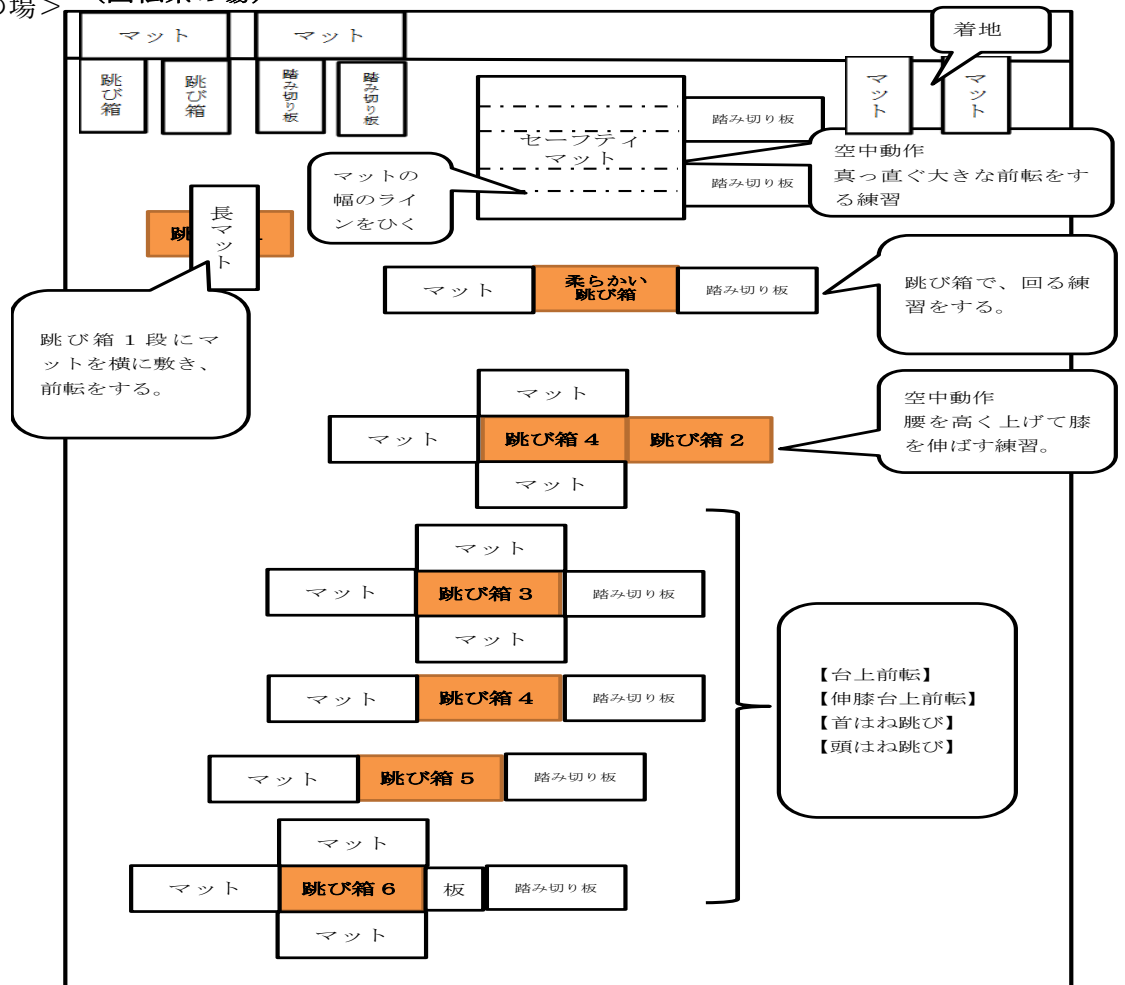


【場の工夫】（「関連の問い」）

感覚づくりの運動で使う場や、本時で取り組む主運動につながる局面ごとに分けられた場をステージや跳び箱周辺に準備した。感覚づくりの運動で毎時間授業の始めに各児童に取り組ませることで、主運動の時間に児童が課題を発見したとき「さっきの場で練習しよう。」などと想起できるようにした。場の設定に関しては「切り返し系（開脚跳び・かかえ込み跳び）」と「回転系」の技に取り組む時間によって2種類に分け、簡単な場にするすることで準備時間の効率化を図った。そこでは、易しい場から難度の高い場へとスムーズに移行できる構成とし、その中で関わり合って活動できるようにした。

また、技のゴールイメージをもたせるために、ICT 機器を活用して技の動画を見ることのできる場をつくった。

<主運動の場>（回転系の場）



<ICT を活用した見本動画>



【関わり合いの工夫】（「関連の問い」）（「方略の問い」）

単元を通した異質グループでのトリオを組み、学習を進めることとする。単元前半は、4つの局面ごとにポイントを見付け合う。第2時～第3時にかけて児童が見付けたポイントは教師がとりまとめて掲示し、トリオの児童同士で言葉掛けをしやすいようにした。

大きな開脚跳び		グループ	
①	②	③	④
①ふみきり	②着手	③空中しせい	④着地
		ふみきった後	手を着いた後

かかえ込み跳び		グループ	
①	②	③	④
①ふみきり	②着手	③空中しせい	④着地

台上前転		グループ	
①	②	③	④
①ふみきり	②着手	③空中しせい	④着地

伸膝台上前転		グループ	
①	②	③	④
①ふみきり	②着手	③空中しせい	④着地

単元後半は、児童は自分が見てほしいポイント（めあて）をトリオの友達に伝えてから試技をし、助言をもらったり、それぞれの課題を見付け出して課題に合った場を選択したりして学習を行い、自己の能力に適した技の習得を目指していくこととした。

手立て③ 学びを自覚し、次の学習につなげる工夫

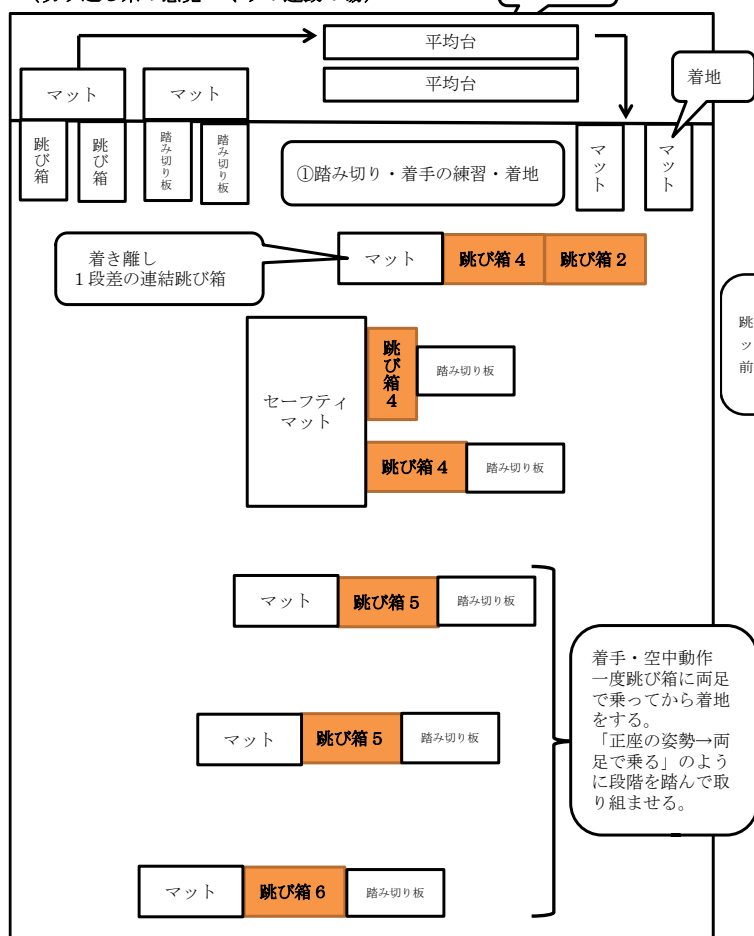
【補助運動・感覚づくりの運動の導入】（「関連の問い」）

単元全体を通し、補助運動「リズム跳び箱」（準備運動含む）を取り入れて、跳び箱運動に直結する感覚を養っていけるようにする。短い時間ではあるが毎時間少しずつ取り組むことで腕支持や踏み切り、足の引き付けや両足着地など局面ごとの動作に触れることができ、跳び箱運動に必要な動きや感覚を習得することができると考えた。

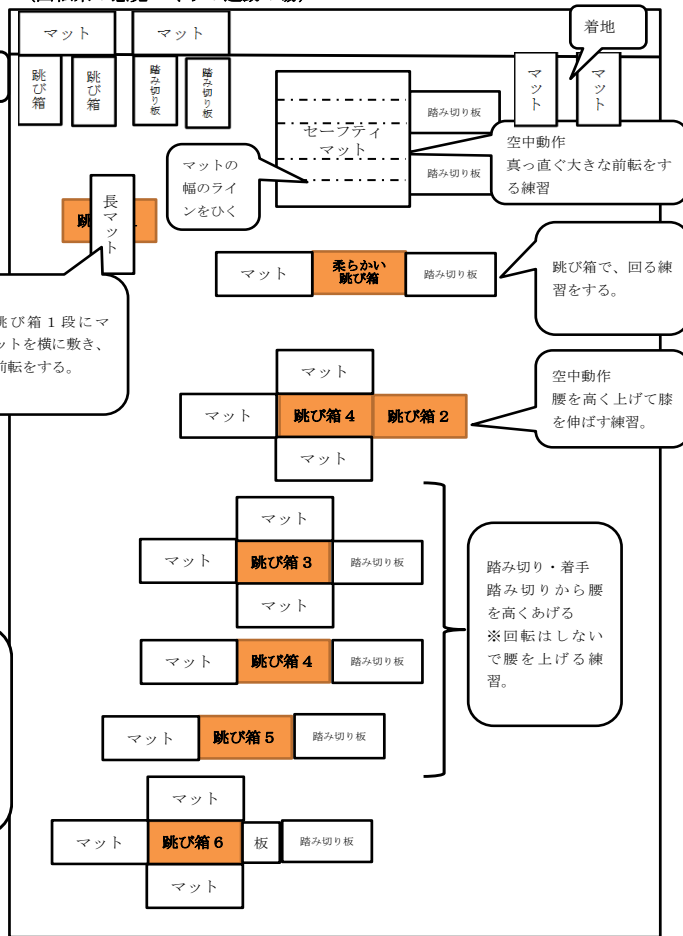
また、一単位時間の流れでは、補助運動の後に「感覚づくりの運動」を取り入れることにした。これは、跳び箱や器具を使って跳び箱運動に直結した動きや感覚を身に付ける運動と位置付けている。跳び箱運動が苦手な児童でもできるように、跳び箱運動の特性に触れ「これならできそうだ。」「やってみよう。」と思えるような運動を取り入れた。

<感覚づくりの運動の場>

（切り返し系の感覚づくりの運動の場）



（回転系の感覚づくりの運動の場）



【学習カードの工夫】（「振り返りの問い」）

終末では、「めあては達成できたか」「課題は何か」「次のめあてをどうするか」など、学習カードを用いて振り返り、次の時間に自分のめあてを立てられるようにする。

「跳び箱運動」学習カード 名前（ ）

日付	①	②	③	④
めあて	跳び箱運動の学習の仕方を知ろう。	切り返し系の技のポイントを知り、自分の課題を見つけよう。自分のめあて	回転系の技のポイントを知り、自分の課題を見つけよう。自分のめあて	めあて
たくさん運動した	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
力が伸びた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
得意でできた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
楽しいと感じた	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
自分のめあてや課題について振り返る。				自分のめあてを立てる。

7 指導計画（本時は 5/6）

時	○主な活動内容	◎指導上の留意点 □評価 ・手立て (★)「学びに向かう力」が見られる姿
1	オリエンテーション ○学習の進め方を知る。 1 学習課題の確認 2 リズム跳び箱（準備運動） 3 器械器具の準備の仕方や約束の確認 4 基本となる技を試す 5 整理運動 6 本時の振り返り	◎用具の持ち方、準備や片付けの仕方など、安全に気を配るように言葉掛けする。 主準備や片付けなどで、分担された役割を果たそうとしている。 知跳び箱運動の行い方について、話したり書いたりしている。 ・手立て①②③ (★3)
2・3	○切り返し系の技のポイントを理解し、取り組む。 1 学習課題の確認 2 リズム跳び箱（準備運動） 3 場の準備 4 切り返し系の感覚づくりの運動に取り組む。 5 切り返し系の技（開脚跳び・大きな開脚跳び・かかえ込み跳び）にトリオで取り組み、ポイントを自分たちで考える。 6 全体でポイントを共有する。 7 ポイントを意識し、トリオで取り組む。 8 整理運動 9 場の片付け 10 振り返り ○回転系の技のポイントを理解し、取り組む。 1 学習課題の確認 2 リズム跳び箱（準備運動） 3 場の準備 4 回転系の感覚づくりの運動に取り組む。 5 回転系の技（台上前転・伸膝台上前転・首はね跳び・頭はね跳び）にトリオで取り組み、ポイントを自分たちで考える。 6 全体でポイントを共有する。 7 ポイントを意識し、トリオで取り組む。 8 整理運動 9 場の片付け 10 振り返り	◎ポイントやこつを教え合っているグループを称賛し、かかわり合いながら学習することが大切だと伝えていく。 ◎技のポイントやこつを見付けたり、教え合ったりしながら活動している児童を称賛する。 ◎技のつまずき及び手立てを明確にもち、指導する。 知切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりしている。 思友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。 主跳び箱運動に積極的に取り組もうとしている。 ・手立て①②③ (★1、3)
4・5 (本時) ・6	○自分の課題に合った練習の方法や場を選んで、練習に取り組む。 1 学習課題の確認 2 リズム跳び箱（準備運動） 3 場の準備 4 感覚づくりの運動 5 自分のめあてに合った技に取り組む。 切り返し系 回転系 ・安定した開脚跳び ・安定した台上前転 ・大きな開脚跳び ・伸膝台上前転 ・かかえ込み跳び ・首はね跳び ・頭はね跳び 6 全体でポイントを共有する。 7 もう一度技に取り組む。 8 整理運動 9 場の片付け 10 振り返り	◎自分の課題を捉え、自分の力に合った場や練習に取り組む児童を称賛する。 ◎友達の運動を見て、励まし合ったり、教え合ったりしている児童を称賛する。 ◎「努力を要する」状況と判断する児童を重点的に指導する。 知切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりしている。 思踏み切りや着手、空中姿勢など、自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選んでいる。 主きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 主場や用具の安全を確かめている。 ・手立て①②③ (★1、2、3)

8 本時の学習（5/6）

（1）目標

- ・踏み切りや着手、空中姿勢など、自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選ぶことができるようにする。

（思考力、判断力、表現力等）

- ・きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとする。

（学びに向かう力、人間性等）

（2）展開

	学習活動	◎指導上の留意点 □評価 (★)「学びに向かう力」が見られる姿
導入	1 学習課題の確認を行う。 ・前時を振り返り、めあての確認をする。 ・学習の進め方を確認する。	◎掲示物などで学習の見通しをもてるようにする。
	自分のめあてに合った練習や場を選んで回転系の技に取り組み、技ができるようになる。 (「理解の問い」)	
展開	2 リズム跳び箱（準備運動）を行う。 ・ストレッチ・5種目走・補助運動 3 場の準備を行う。 4 感覚づくりの運動に取り組む。 ・回転系の感覚づくりの運動に取り組む。 ・グループに分かれて、ローテーションしながら各場所を回る。 5 自分のめあてに合った回転系の技に取り組む。 ・自分のめあてを同じグループの友達に伝え、解決方法を考えながら安定した台上前転、伸膝台上前転、首はね跳びに取り組む。 6 全体でポイントを共有する。 ・両足で強く踏み切り、腰を高く上げる。 ・跳び箱の手前側に両手を着手し、あごを引き、頭の後ろを着いて前転する。 ・胸を膝に付けるようにしながら、回転し着地する。 (「方略の問い」)	◎伸ばしている部位を意識できるようにする。 ◎ポイントを意識して運動できるようにする。 ◎安全に気を配るように言葉掛ける。 (★3) ◎ポイントとなる体の動かし方を助言する。 ◎意識させたい動きができていた児童を称賛する。 ◎タブレットの追いかけ再生機能を活用して、自分の課題を見付けられるようにする。 (★1) ◎自分の課題を捉え、自分の力に合った場や練習方法に取り組んでいる児童を称賛する。 ◎友達の運動を見て、励まし合ったり、教え合ったりしている児童を称賛する。 ◎ポイントを局面ごとに確認し、全体で共有できるようにする。 ☒友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。 (学習カード・発言)
	7 もう一度回転系の技に取り組む。 ・全体で共有したポイントを意識して、もう一度安定した台上前転・伸膝台上前転、首はね跳びに取り組む。 (「関連の問い」)	☒きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合おうとしている。 (観察・ビデオ分析) ◎「努力を要する」状況と判断する児童を重点的に指導する。 (★2) ◎技に取り組んでいる様子をタブレットで撮影し、これまでの動画と比較して自分の課題が解決できているかを確認できるようにする。
まとめ	8 整理運動をする。 9 場の片付けをする。 10 学習の振り返りをする。 ・学習を振り返り、次時の自分のめあてを立てる。 (「振り返りの問い」)	◎使った部位をほぐすように言葉掛けをする。 ◎安全に協力して片付けるよう言葉掛けする。 ◎ポイントを意識して取り組んだり、友達と関わって学習したりすることの大切さに気付いている児童を称賛する。